

# 立命電友会

RITSUMEI DENYŪKAI

No.  
59

目次

- P1-2 巻頭言  
P2-3 新任のご挨拶  
P4-5 第8回総会報告  
P6 会計報告  
P7-9 創立30周年記念祝賀会  
P10 同窓会便り、追悼文  
訃報、事務局日より

巻頭言

## 立命電友会 会長就任にあたって

立命電友会 会長

森岡 泰雄 (1994(平成6)年院卒)



2022年6月25日に開催されました第8回総会において会長に選出頂いた森岡です。

立命電友会会員の皆様には、日頃より、会運営にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

立命電友会は、1992年11月1日に京都にて設立されました。1913(大正2)年京都帝国大学内に設立された私立電気講習所以来、当時1回生として迎えた電気電子工学科第1期生まで80年近い歴史を持ち、常に母校を慕い、学科同窓会を渴望していた卒業生一同にとって、記念すべき日となりました。以来30年、立命電友会の各年度役員と会員諸氏のご努力により、組織の拡充と会員へのサービス向上を図りながら順調に活動を続け、8,268名でスタートした会員も、歴代会長はじめ、役員、会員の皆様のご尽力で発展し、今や15,000名を超える大きな組織になりました。その間、2002年創立10周年、2012年創立20周年の節目には記念祝賀会を開催し、会の継続と母校の発展を皆様と共に祝い、そして昨年2022年、立命電友会は創立30周年を迎え、11月6日ザ・プリンス京都宝ヶ池に於いて、多くの来賓ならびに会員のみなさまと共に記念祝賀会を執り行い、立命電友会の発展を祝うことが出来ました。改めまして御礼申し上げます。

私は、昭和最後の入学となる1988(昭和63)年4月に当時はまだ衣笠キャンパスにあった理工学部電気工学科に入学、卒業後大学院博士課程前期課程に進学、修了後そのまま大学職員となり、今年2023年4月で大学入学から数えて立命館生活35年となります。

学生時代のことを少し触れさせて頂くと、入学した1988年は国際関係学部が開設された年であり、入学式も卒業式も総代挨拶は国際関係学部の方だったと記憶

しています。また、前年の情報工学科の開設もあり、新4号館(現、洋洋館)が新築供用開始され、真新しい基本棟で学ばせて頂く恩恵も受けました。科目により他の建物も使うことはあったのでその違いは歴然でした。

2回生までは実家のある大阪府八尾市東部の奈良県境に近い所(最寄駅は近鉄信貴線服部川)から衣笠キャンパスまで通学しており、通学時間に往復5時間半を要していたので1時限目の講義では睡魔との戦いでした。教職科目も受講していたので、当時の受講登録制限単位である年間60単位を超えての受講登録があり、学生実験も本格的になる3回生からは下宿をしましたので時間的余裕がかなり出来ました。おかげで大学4年間の総取得単位数は271単位となり、4単位の科目が大多数だった当時に初めて成績証明書が2枚に亘った学生として知られることになりました。

4回生の卒業研究は溝尻勳先生の研究室に配属となり本格的な研究というものを初めて学びました。その頃は大学院が拡充される途上であり、毎年定員が5名ずつ増やされており、私の時は定員25名でした。溝尻研究室では推薦入試で定員に達していたため、一般入試組の3名は研究室を移ることとなり、1名が三木秀二郎先生の研究室に、私ともう1名が辻村寛先生と前田稔夫先生の研究室に配属となりました。

大学院の入学式はその年(1992年)に完成したばかりの立命館大学国際平和ミュージアムを収容するアカデミア立命21の中野記念ホールで行われました。大学院では日常的に研究活動が中心となり、学部より高度な講義も受けなければなりません。洋書を使われ英語での講義もありました。また、その頃はティーチング・アシスタント(TA)制度が導入され始めた頃で、

強電に関する学生実験のTAを担当させて頂き、配線チェックもせずに学生がスイッチを入れ、その瞬間に目の前で細い電線が短絡でブチ切れたり、被覆が焼け煙にまかれたりする経験もさせて頂きました。大学院M2の1993年度は翌1994年4月のびわこ・くさつキャンパス(BKC)の開設に向けて移転作業や理工学部移転後の再整備の関係で実験は12月一杯で終了して研究室を明け渡し、修士論文や卒業論文をまとめるのは、2号館3階の大教室を間仕切り、卒研室ごとに割り当てられた小部屋での作業でした。無事に論文を提出した後は、最後にBKCで荷解きを手伝いました。

さて、第8回総会の折にもお話させて頂きましたが、立命館大学校友会は母校支援、後輩支援を目的として設立されました。それは我々、立命電友会もその一つである学部学科同窓会、都道府県校友会、海外校友会、地域校友会、職域校友会、各種グループ校友会も同じです。母校の健全な存在、発展があってこそその校友組

織です。そしてその校友組織も次代への「継承」なくして、存在することはできません。

これまでの先輩の皆様方が作り上げてこられた立命電友会の活動を「継承」しながらも、時代時代に応じた変革が必要です。例えば、若手や子育て世代でも会にかかわることができるようにすることは時代の要請ではないかと考えています。現役学生をはじめ卒業して間もない校友への後輩支援についても、引き続き力を入れ、役員一同協力して、会員の皆様のお力添えを頂きながら、会の発展を進めなければと考えています。

少し年齢を重ねているかも知れませんが、私の世代が先輩方と若手の皆さんを繋ぐ潤滑剤の役目を担い、様々な課題を一つ一つ解決して行きたいと思っております。今後も引き続き、立命電友会会員の皆様からの叱咤激励、ご教示、ご鞭撻、より一層のご協力ならびにご支援を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 新任のご挨拶

### 電気電子工学科

#### 助教 清水 悠生



2022年4月より、電気電子工学科に助教として着任しました。私はモータ・パワーエレクトロニクス分野への機械学習応用の研究を行っています。

私は奈良県生駒市に生まれ、奈良高等学校を卒業後に大阪府立大学(現：大阪公立大学)に進学しました。大阪府立大学では電気電子工学を専攻し、自動車に興味があったので、電気自動車の主機モータの設計・制御に取り組む研究室に配属希望を出し、博士前期課程の修了まで楽しく研究に従事しました。

博士前期課程の修了後はトヨタ自動車株式会社に入社しました。配属先の部署は、UX300eやbZ4Xなどの電気自動車向けの電池設計を行う部署でした。電池設計の業務は未知のことだらけで興味深く、日々勉強になることばかりで、大変充実したものでした。しかし、設計開発業務を一通り経験した私は、先端的な研究開発には創造性が求められる一方で、製品設計には仕様変更に伴う設計修正や調整作業が多いと感じまし

た。もちろん後者にも専門知識や高度な判断が必要不可欠ですが、2019年当時はAI分野が大流行しており、設計業務もAIの技術で自動化できるのではないかと考えるようになりました。そして、最初は社内の先輩と二人で設計業務の自動化に取り組みました。具体的には、Excelのマクロ機能と統計的知識を活用して、企画部署の提示する要求仕様から自動で机上設計を実施するツールの構築です。しかし、「設計×自動化」という分野は先端的で難しく、日常の業務の片手間では実現に至りませんでした。だからこそ私は、研究者としてこの問題に本腰を入れて取り組むことを決意し、会社を退職して大阪府立大学に博士後期課程の学生として進学しました。

2020年4月に博士後期課程に進学した私は、モータの機械学習による自動設計の研究を立ち上げました。当時の私は機械学習についてはまったくの無知であり、独学で勉強を進めていきました。ちょうどコロナウイルスが流行し始めた時期であったため、入学後すぐに大学が閉鎖され、知り合いも出来ず、やっていることは何もわからず、周りに相談できる人もいないという状況で、数か月間自宅で独りで研究を続けていました。この時期は人生で最も辛い時期でした。転機は、同年

12月にJST・ACT-X「AI活用で挑む学問の革新と創成」という研究プロジェクトに採択されたことです。AIの各分野のプロフェッショナルや若手研究者と議論する機会に恵まれ、多くの疑問を解決することができ、研究がようやく前に進むようになりました。研究を相談できる仲間や先生方がいることの素晴らしさを痛感しました。

そして紆余曲折を経て2022年3月に学位を取得し、この度、幸運なことに、立命館大学の助教として従事させていただき運びとなりました。経験の浅い若輩者でございますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ちなみに、この文章の一部はChatGPTという自然言語系の生成AIを用いて生成しています。AI技術の進歩を少しでも体感していただければ幸いです。

#### 電子情報工学科

#### 助教 吉田 康太

(理工学部電子情報工学科 2017年卒業)



2022年4月より、電子情報工学科に助教として着任いたしました。現在は人工知能(AI)技術のセキュリティを主な関心領域として研究を行っています。また、所属研究室の専門分野よりハードウェアセキュリティやイメージセンサと画像処理の研究も行っています。

私は1994年に福井県福井市に生まれ、その後両親の仕事の都合で東京都葛飾区にて幼少期を、兵庫県高砂市で高校卒業までを過ごしました。幼少期から父のPCに興味もなく触っているような子供で、小学校高学年の頃には父からもらったお下りのノートPCでオンラインゲームに熱中していました。中学生になるとより快適なゲーム環境をという思いから入学祝いを元手に自作PCを組み、高校生の頃には友人とゲームを遊ぶための自宅サーバ構築にも手を出し、少しずつコンピュータやネットワーク関連の知識を仕入れていきました。ゲームを中心にIT関連の知識と興味を膨らませてきた私ですが、高校2年生の頃に本学のオープンキャンパスにて論理回路のみで知的に動くロボットに出会い、ソフトウェアのハードウェアアクセラレーションに興味を持ちました。最終的にはこれをきっかけとして本学の高大連携プログラムを通して

2013年に理工学部電子情報工学科に入学しました。

学部・修士の研究ではAIを活用した画像処理技術を中心に研究を進めてきましたが、2018年に参加した国内学会でAIモデルの誤分類を誘発させる攻撃の発表を聴講したことが現在の研究分野に興味を持つ最初のきっかけでした。同時期に参加した企業インターンにて「博士をとるなら学生の方がよい」と社会人博士課程を修められた方々に勧められたこともあり、博士後期課程への進学を決意しました。

AI、特に深層学習技術は画像、音声、言語などを対象とする様々なタスクで高い性能を発揮しています。近年では自動車の先進運転支援システムや医用画像処理、顔認証システムなど人命やセキュリティ、プライバシーに関わる分野にも応用されるようになってきました。一方で、深層学習モデルは人がルールを決めて記述するプログラムとは異なり、内部の振る舞いはあくまで確率的なものです。また、内部パラメータが数億個もあるような巨大モデルにもなるとその挙動を人間が把握・制御することはほとんど不可能です。2014年ごろからこのような深層学習モデルのブラックボックス化を悪用した攻撃が数多く報告され始めました。その脅威は多岐にわたり、モデルの誤認識を誘発する攻撃や、アクセス権限が制限されている中でモデルのコピーを作成する攻撃、モデルの学習に使われたデータを復元する攻撃などがあります。このようなセキュリティ・プライバシーの脅威は深層学習モデルが社会で広く使われるようになってから対処するには遅すぎるため、いち早くその脅威の全貌を明らかにし、対策を講じる必要があります。私は博士論文にて深層学習技術のセキュリティに関する研究、と題してこれらの脅威の評価と対策の議論を行いました。ありがたいことに本研究で扱ったいくつかのテーマについて賞をいただき、また解説論文の執筆もさせていただきました。指導教員の藤野毅先生はLSIがご専門であるにも関わらず、私がAIの研究を進める中でも重要なアイデアに関わる、示唆に富んだ助言を数多くいただきました。博士課程卒業という形で一旦の区切りがついたものの、まだまだこの分野でやりたい研究は多く残っています。幸運にも恵まれて本学にご採用いただけましたので、藤野先生と大倉先生のもとで引き続き研究に邁進する所存です。皆様には引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 立命電友会第8回総会開催報告

(オンライン形式)

2022年6月25日(土)、第8回目となる立命電友会総会がオンライン形式(ネットワーク環境が整わない会員はキャンパスプラザ京都にて対面形式)にて開催されました。総会は会則により4年毎の開催が定められています。前回の第7回総会は2016年6月に開催されたため当初は2020年中に行う予定でしたが、世界的パンデミック(新型コロナウイルスまん延)で中止となり、臨時の役員会にて2年延期を決め、ようやく2022年に実施することができました。



当初は盛大に開催すべく創立30周年記念行事と同時間開催も検討しましたが、いかに安全に開催できるかを検討した結果、創立30周年記念祝賀会と時期をずらして開催することになりました。

オンラインでの総会は初めての試みでもあり、当日は13時15分からWEB接続を開始し、13時30分から総会を開始しました。

来賓紹介が行われた後に瀬見英利会長が挨拶され、議事に移り、議長として森岡泰雄幹事が選任され、私、川畑から2016年～2021年の6年間の事業報告を行った後、会計担当の久保幸弘幹事から会計報告があり、会計監査で問題がなかったことが荻田泰廣会計幹事から報告されました。続いて、会則について、①設立日の明確化、②所在地の明確化、③任期についての明確化の改定案が承認されました。

役員改選については、次期会長として森岡泰雄幹事が提案され、出席会員全員の賛成で承認、選出されました。また、副会長、幹事、会計幹事については森岡新会長から推薦があり、承認されました。新役員については、別記していますのでご確認ください。

最後に森岡新会長よりこれからの抱負を述べられ、

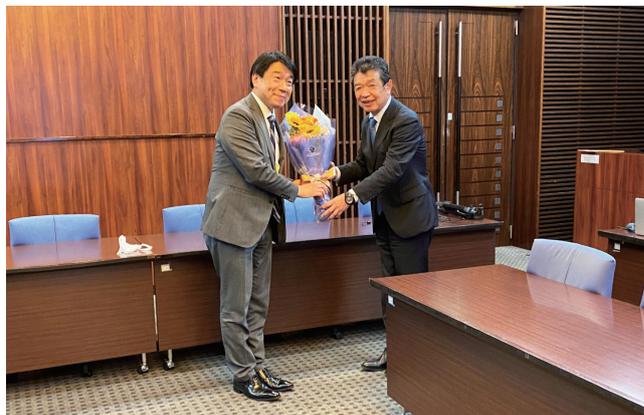
総会は終了しました。

続いて、総会で恒例となっている講演会が15時から開催されました。今回の講演会は、立命館大学校友会副会長であり、公益社団法人日本航空技術協会会長の伊藤博行氏(元全日空代表取締役副社長、立命館大学理工学部機械工学科1974年卒業)を講師に迎え、「時にカラスは白くなる」～世界最高峰の安全管理とリーダーシップ～と題して、普段では見ることのできない貴重な資料をご提示いただきながら、航空の安全管理を中心に、1時間にわたり講演いただきました。オンライン形式での開催でしたが、質疑応答では対面形式を思わせるほどの熱心なやりとりがありました。



立命館大学校友会副会長 公益社団法人日本航空技術協会会長 伊藤博行氏

従来では講演会後に懇親会を開催していましたが、コロナ禍の状況から今回はとりやめ、立命電友会創立30周年記念祝賀会にて盛大に行うことを誓い、お開きとなりました。(川畑良尚(平成6年卒)記)



(感染対策を十分にとり、発言者および記念撮影のときのみマスクをはずしています。)

# 第8期 新役員紹介

<b>会 長</b>	森岡 泰雄 (H4年卒)		
<b>副 会 長</b>	西山 和秀 (H7年卒)	田中 亜実 (H21年卒)	
<b>会計監事</b>	加藤 義彦 (S55年卒)	横井 猛彦 (S59年卒)	
<b>事業幹事</b>			
<b>(事務局長)</b>	川畑 良尚 (H6年卒)		
<b>(会 計)</b>	久保 幸弘 (H9年卒)		
<b>(関東立電会担当)</b>	米澤 正勝 (S36年卒)	木藪 和彦 (S46年卒)	松崎 孝治 (S55年卒)
	浜崎 博明 (S55年卒)	遠藤 寛明 (H27年卒)	
<b>(九州・沖縄支部担当)</b>	森下 明憲 (S44年卒)		
<b>(事業活性化担当)</b>	安江 弘雄 (S36年卒)	高山 茂 (S59年卒)	華山 浩伸 (H8年卒)
<b>(幹 事)</b>	前田 稔夫 (S30年卒)	稲越 二郎 (S33年卒)	畑 孝典 (S33年卒)
	荒木 敏 (S34年卒)	松井 正夫 (S34年卒)	田中 壽雄 (S35年卒)
	小寺 実 (S37年卒)	砂崎 耕三 (S37年卒)	四方 健雄 (S41年卒)
	横田 裕 (S42年卒)	瀬見 英利 (S44年卒)	山下 勉 (S45年卒)
	加納 靖憲 (S45年卒)	奥村 次夫 (S45年卒)	南原 英生 (S45年卒)
	富士田忠弘 (S45年卒)	天野 佳則 (S46年卒)	疋田 純一 (S46年卒)
	山本 恵二 (S47年卒)	山下 勇 (S47年卒)	今川 博文 (S48年卒)
	森 建一 (S51年卒)	藤本 正博 (S53年卒)	宮下 晋哉 (S53年卒)
	岡島 秀幸 (S54年卒)	大島 正 (S54年卒)	小川 弘之 (S55年卒)
	岡田 清 (S55年卒)	杉本 幸生 (S56年卒)	岩田 和男 (S57年卒)
	松野 安男 (S58年卒)	山口 雅英 (S58年卒)	隅田 洋一 (S59年卒)
	小堀 聡 (S60年卒)	塚本 充 (S61年卒)	梅迫 実 (S62年卒)
	林 道也 (S62年卒)	山本 昌弘 (S63年卒)	本庄 謙一 (H元年卒)
	田口 耕造 (H3年卒)	澤田 繁博 (H5年卒)	威徳井 浩 (H7年卒)
	中垣 充弘 (H7年卒)	西山 能弘 (H9年卒)	尾江 聡 (H11年卒)
	川上 知之 (H12年卒)	小泉賢太郎 (H12年卒)	豊嶋 洋樹 (H18年卒)
	眞鍋 誠 (H20年卒)	山田 大輔 (H25年卒)	北 翔希 (H27年卒)
	永野祐之信 (H27年卒)	大井 崇広 (H30年卒)	
<b>教員幹事</b>	荒木 努	今井 茂	宇野 重康
	柿ヶ野浩明	佐野 明秀	鷹羽 浄嗣
	瀧口 浩一	沼居 貴陽	野坂 秀之
	藤枝 一郎	峯元 高志 (H13年院卒)	渡邊 歴
	岡野 訓尚	福水 洋平	毛利真一郎
	河野 悠	清水 悠生	中本トラン
	繁田 光浩	泉 知論	久保 博嗣
	熊木 武志	富山 宏之	道関 隆国
	中山 良平	藤田 智弘	福井 正博
	藤野 毅	馬杉 正男	大倉 俊介
	孟 林	孔 祥博	檜作 彰良
	吉田 康太		

# 『立命電友会 創立30周年記念祝賀会』報告

副会長 西山和秀 (平成7年卒)

立命電友会は創立が1992年11月1日であり本年で30周年を迎えることから、2022年11月6日に記念祝賀会を開催する運びとなった。

## ■ 準備委員会の発足・準備

2020年よりコロナウイルスが広まり、大規模な集会に対して開催場所・人数・形式に大きな制約が入る中、2021年4月に祝賀会準備委員会を立ち上げ、計13回この日に向け準備を進めてきた。準備委員会においても前述の通りコロナの動静を睨みつつの開催となるため、集合形式での会議は開くことができず、手探りながらオンラインでの会議形式をとることで準備を進めてきた。30周年を迎える2022年に開催することを決めつつも、1年以上先の社会状況を予測することは難しく、コロナが収まっているのか拡大しているのかが見えない中、どのような形式であれば安全に開催ができるのかを模索しつつ準備を進めることとなった。

「人と人の間が確実に確保できる着席形態」「大声では話さない、全員での校歌斉唱等を控える」「舞台上においても、密にならないような席配置・題目」「席間の

クリアパネル設置」など、この場での感染が広まることを抑えるための対策を講じながら、基調講演・パネルディスカッションをメインとすることや、人数をある程度抑えた形での開催、オンラインとの併用、などが準備委員会の中で決められることとなった。

## ■ コロナの情勢

2022年においては、1月から3月頃に第6波、7月から8月に第7波、11月後半から第8波、と3度の波があった。この波のピークにあたった場合は、開催が危ぶまれる懸念があったが、幸い開催を計画していた11月6日においては、ちょうど7波と8波の間にあり、立命館大学全体で規定されているBCPレベルを参考にしつつ、予定通りの形で開催が可能との判断を10月に下した。それでも日々数万人の感染者が発生していた時期ではあったこともあり、またご高齢の方も多いため、前述の通り安全対策を徹底しつつ、祝賀会の開催に至った。

## ■ 当日の様相

12時の受付開始直後から、早くも多くの会員の皆さまが集まり始め、受付近辺・会場内は大いに賑わうこととなった。そこかしこで同窓生の輪ができ、久しぶりの対面に話が弾む中、13時に開会、祝賀会が開始となった。また、初の試みであったオンラインでのリアルタイム配信も予定通り開始され、どうしても現地参加が難しい場合のリモート参加も順調であった。立命館大学副学長 野口様、校友会副会長 柴田様、校友会事務局 加藤様、立命館大学理工学部長 高山 茂



立命電友会副会長 西山和秀



立命館大学副学長 野口義文 祝辞



講演会 大依 仁 様



懇親会・乾杯



講演会 風景

先生 数物会会長 高須様、機友会会長 池田様を来賓にお迎えすると共に、OB 教員である前田先生、浦山先生、杉本先生、名西先生、服藤先生もご参加での開催であった。

本来であれば全員で斉唱する校歌も、コロナの影響で曲を静かに聞く形で進む。会員であった物故者への黙とうに続き、新会長・森岡様より開会の挨拶と共に、コロナ禍での開催経緯や感染を広めないための注意事項などを述べて頂いた。また、来賓の方より副学長野口様から、発足30周年についての労いなど祝辞をいただき、その後、多数頂戴した祝電の披露が行われた。

## 講演会

メインイベントの一つである大依氏の講演会が行われた。「京都が拓き日本が開く宇宙・航空の電動化」とのタイトルでの講演で、荻屋先生とのエピソードを交えつつ、航空機における電動化の取組についてご講演頂いた。当面のところは推進力としてエンジンを使い

ながらも、より電化された航空機に関する現在の取り組みなど、非常に興味深い話を頂き電気業界の広がりを感じ取ることができた。また、将来的な構想としては、航空機を電力で飛ばす（電動推進）ことも想定しているが、40MW もの大電力が必要とのことであった。これには今後の大きな技術革新が必要になるが、大きなチャレンジングなテーマとして夢のある話であったと感じた。

## パネルディスカッション

続いてパネルディスカッションが行われ、講演頂いた大依氏に、山口氏・中原氏・峯元先生を加え、熱い議論が行われた。山口氏からは、EV・太陽光パネルの普及状況、GS ユアサ社の取り組みなどの紹介を頂き、中原氏からは、ローム社におけるデバイス開発の取り組みについての紹介があった。司会の峯元先生にご用意いただいたテーマを元にディスカッションが進み、電気業界の掘り下げや各社の紹介を交えながら、産学



パネルディスカッション



パネルディスカッション

共同体としての電友会の在り方などについて議論が深められた。それぞれの領域での成果の共有だけではなく、ある意味、失敗談的なことも話せる場として、こういった電友会の場は有効ではないか、とのお話をいただいた。

## 懇親会

立命館大学校友会 副会長の柴田様より乾杯の音頭で、懇親会の部の開始となった。13時の開始から早くも3時間以上が経過しており、まさに食事がとりたくなるタイミングであった。コース料理が手際よく配膳され、これまでのアカデミックな会の装いから、一気に華やかな会場の様子に一変することとなった。クリアパネルで仕切られたテーブルながら、食事をとりながら会員間の懇親が進む。この日、総長選挙に重なってしまったため参加が遅れていた高山理工学部長が到着され、到着早々ながら祝辞を頂き大きく盛り上がる

こととなった。またこの懇親会の時間を利用して、遠藤氏から関東立電会取り組み状況をご紹介いただくと共に、現役学生を迎えて研究室紹介が行われ、学生諸君の活躍の状況などを垣間見ることができた。続いて川畑事務局長より、立命電友会30年の歩みをご紹介いただき、発足当時の様子を思い出しながら、この長き30年にわたる取り組みや動向について、会員一同想いを巡らせることとなった。

また久保幸弘先生より、近年の電気工学科における学生の応募状況をご紹介いただいた。このところ電気系学科への学生の応募状況が思わしくないことから、会員のご子息・親戚等への勧誘をお願いしたい、とのことである。前述の講演等でもあったように、電動化を始めとして電気業界に対する世の中の注目度は高く、将来の大きなテーマ・技術革新もまだまだ控えていることから、是非 興味のある親戚等がおられましたら、勧誘をいただけると幸いとのことだった。



理工学部長 高山茂 祝辞

## 最後に

コロナ禍の状況ではありましたが、現地参加120名、オンライン参加26名を迎え、大いに旧交を温め、盛況のうちに幕を閉じることができた。ご参加の皆さま、ありがとうございました。

最後となりましたが、本会の開催にあたり精力的に準備に加わって頂きました準備委員会ご参加の皆さま、事務局の皆さまに、心から御礼を申し上げるとともに、会員の皆さまのご健勝を祈念申し上げます。

### 第4回 川畑研究室同窓会 開催報告

2022（令和4）年11月6日（日）に、川畑研究室の総会・同窓会を開催しました。川畑研究室の総会・同窓会は、2019年9月に第3回目の開催を行ってから、3年ぶりの開催となりました。

今回は、「ザ・プリンス 京都宝ヶ池」で開催された「電友会30周年記念祝賀会」と同日として、祝賀会の終了後に執り行うことになりました。まだコロナ禍が完全に収束していない状況下でもあり、祝賀会を含めて開催可否の判断をギリギリまで検討しておりました。それでも一時期のピークは越えていることなどを鑑みて、無事に開催することが出来ました。

祝賀会を終えて、同窓会の会場へ移動。今回は祝賀

会参加メンバーも多く、祝賀会終了後の移動の便も考慮して、JR京都駅付近の居酒屋での開催としました。院生2名、ゲスト2名を含む15名の参加という小ぢんまりとした規模となりましたが、懇親会前の総会を含めてメンバー間の交流が深まりました。

今回で4回目の開催でしたが、参加の同窓生も2010年代の卒業生が多く、幹事メンバー世代との間の同窓生との交流がまだ少ないという課題も残りました。幹事一同、努力がまだまだ足りない、強く感じております。

最後に、今回同窓会に参加できなかった方々も、次回開催の折には是非とも同窓会に参加頂き、人とのつながりを新しく掴み、交流を深め広げて頂ければ幸いです。

威徳井 浩 記（平成7年 電気電子工学科卒）

### 辻村寛先生 追悼文

立命電友会設立以来、その発展のため、中心的に携わられてこられた、辻村寛先生が2022年7月21日に91歳の天寿を全うされ、ご逝去されました。

辻村先生のもとには、早くから卒研同窓会が開催され、多くの卒研同窓生が集まり、縦の繋がりも出来上

がり、その経験から多くの同窓生が、先生が設立に尽力された立命電友会をはじめとして、都道府県校友会、校友会本部にも携わり、母校支援、後輩支援の一助を担い、先生の志を継いでいます。

辻村先生、これまでどうもありがとうございました。天の上からもどうぞ引き続き、母校、後輩を見守り下さい。立命電友会 会長 森岡泰雄 記

### 訃報

昭20卒	谷村 肇	平成23年3月	昭35卒	森田 高信	令和4年7月
昭22卒	當麻 吉見	平成28年2月	昭36卒	坪佐 弘高	令和3年
昭25卒	安井 清	令和2年10月21日	昭36卒	荒井 俊明	
昭27卒	齋藤 博視	令和3年10月22日	昭36卒	飯野 光彦	令和2年10月24日
昭28卒	辻村 寛	令和4年7月21日	昭36卒	廣瀬 巖	平成28年8月3日
昭28卒	上原 則尚	平成27年2月	昭38卒	栗山 玄	平成30年12月12日
昭29卒	吉川 文雄		昭38卒	大田木 淳	令和2年5月
昭30卒	井上 基美	令和3年4月23日	昭39卒	石戸八洲雄	令和3年6月10日
昭30卒	藤岡 孝造	令和元年10月	昭41卒	渡辺 一彦	
昭30卒	永楽 藤八	令和4年1月19日	昭45卒	横尾 昌幸	平成30年
昭32卒	田中 良雄	平成31年	昭47卒	温井 正則	令和4年5月20日
昭32卒	竹中 新策	令和3年10月	昭49卒	長井 学	令和2年5月14日
昭33卒	久世 健	令和2年6月5日	昭50卒	石橋 淳一	
昭33卒	藤谷喜四朗		昭55卒	伊佐治弘之	令和4年12月
昭34卒	原 清博	令和元年9月6日			
昭34卒	土岡 有光	令和3年9月26日			

ご冥福をお祈り申し上げます

### 事務局だより

立命電友会会報59号の発行にあたり、ご寄稿を頂きました皆様に対し心よりお礼を申し上げます。

今後も会報内容充実に一層の努力を重ねて参りたいと考えております。どうぞ、会員の皆様の積極的なご寄稿を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

住所及びアドレスの変更がございましたら事務局までご連絡頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。ホームページから変更受付しておりますのでご活用下さい。

（上田・岸）

### 立命電友会連絡先

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学理工学部電子システム系内

立命電友会事務局 川畑 良尚

上田 美津子（月・木）

岸 千津代（月・木）

電話：077（561）2554 FAX：077（561）2663

e-mail：den-yu@st.ritsumei.ac.jp

http://ritsumei-denjukai.com/

（会報の題字は久保之俊氏）